

令和2年度「新たな広域連携促進事業」
成果報告書

令和3年（2021年）2月
札幌市

目次

I 事業の目的・概要

II 調査概要

- 1 目的等
- 2 方法
- 3 対象
- 4 時期
- 5 外部有識者

III 調査結果概要

IV 考察

- 1 高齢者の活躍に向けた課題の洗い出し
 - (1) シニア層における課題
 - (2) 中年層における課題
 - (3) シニア層と中年層における課題の比較
- 2 高齢者の活躍推進に有効と思われる取組とその実現可能性等
 - (1) 「活動をしてもいい」という意識への変化を促す取組
 - (2) コミュニティへの参加の促進に向けた取組
 - (3) シニア層のマインドセットや、活躍するシニア層の姿の情報発信
 - (4) 金銭的な報酬を伴う活躍の場の創出やマッチング、資格取得サポート
 - (5) 外国語を使用する活動を促す取組

V 今後に向けて

参考資料 1 調査結果

参考資料 2 調査表

I 事業の目的・概要

平成31年3月に形成した、全国最大の約260万人の人口を有する「さっぽろ連携中枢都市圏」（連携中枢都市である札幌市並びに連携市町村である小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町及び長沼町により構成される圏域をいい、以下「さっぽろ圏」という。）における人口減少・少子高齢化は急速に進行しており、高齢化率が概ね50%に達するという国立社会保障・人口問題研究所による推計がなされていること等を背景に、さっぽろ圏全体として、高齢者関連経費の更なる急激な増加や行政における人的資源の確保の必要性等が見込まれ、高齢者関連行政のひっ迫や、これに伴う福祉行政、ひいては行政サービス全体の質の低下の懸念があり、圏域の共通課題といえる。

しかし、これまでの高齢者に関する行政施策は、介護保険制度が各市町村単位で実施されていることから明らかなとおり、「住んでいる地域」、すなわち各市町村においてより良いサービスを受けるといった要素が多くを占めており、広域的な取組による解決には馴染みにくい一方で、地域を活性化する人的資源となり得る高齢者が多くいるにもかかわらず、その観点からの広域的な取組はなされていない現状にある。

そこで、本事業では、ジェロントロジー（高齢化社会工学）¹の考え方を背景に、高齢者を社会に「支えられる側」としてではなく、社会を「支える側」として捉え直すことを前提に、さっぽろ圏という広域的なフィールドにおける「高齢者の活躍推進」に資する取組の構築に活用することを目的として、さっぽろ圏に居住するシニア層（65歳以上の年齢層をいう。以下同じ。）及び中年層（45歳以上64歳以下の年齢層をいう。以下同じ。）に対し、現在又は将来の社会参画等に関する意識等についてのアンケート調査を行い、その結果を分析する。

なお、本事業は、当初、以下のとおり「さっぽろ圏シニア人材魅力創出事業」として実施予定であったが、令和元年末に発生した新型コロナウイルスの感染拡大防止等に伴う国の緊急事態宣言をはじめとする外出自粛要請等の影響により、事業趣旨を維持した上で内容を変更して実施したものである。

（参考）当初実施予定であった事業

「高齢者の活躍推進」に関する取組の1つのモデル形態として、以下の事業概要のとおり、3つのプログラムを実施し、各段階において、参加者に対する意識調査等を行い、取組の有効性や今後の展開可能性等を検証する。

¹ 「高齢者が積極的に社会に参画して貢献する主体となり、かつ、全世代が健康でより活躍できる新たな社会システムの構築を目指すもの」と定義する。

【当初実施予定であった事業概要】

札幌市 新たな広域連携促進事業概要		(様式1)
関係地方公共団体		
提案市町村：札幌市、1,952,356人、1121.26km ² 連携する市町村：小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町、648,519人、3393.63km ²		
提案・連携する都道府県、市町村の特長	○さっぽろ連携中枢都市圏の高齢化は急速に進行しており、2040年には圏域内の3分の2の市町村で高齢化率が概ね50%に達するとの推計 ○観光入込客数38,596千人(2018年度)を誇る全国でも有数の観光エリア	
提案概要		事業見積額(千円)
高齢化率の上昇等に伴う高齢者関連行政の逼迫への懸念等を背景として、高齢者を社会に「支えられる側」としてではなく、社会を「支える側」、すなわち新たな「バリュー」を生み出す存在として捉え直すというパラダイム転換を前提に、「高齢者の活躍推進」に関する取組の1つのモデル形態として、外国人に対応できる専門的なシニア人材育成・活用に関する実現可能性や有効性等を検証する。		10,000
取組内容		
○ 以下の3プログラムから構成される「さっぽろ圏シニア人材魅力創出事業」を実施し、各段階において、参加者に対する意識調査等を行い、取組の有効性や今後の展開可能性等を検証する。		
<STEP1>さっぽろ圏シニア向けマインドセットプログラム		
○ 「さっぽろ圏シニア」に対し、社会参画その他活躍に関する意識向上に資する研修を行い、<STEP2>以降のプログラム受講の目的を明確化し、プログラム効果の最大化を図る。		
<STEP2>さっぽろ圏シニア向け外国人とのリレーション構築プログラム		
○ <STEP1>を修了した「さっぽろ圏シニア」と「さっぽろ圏に在住する外国人」との交流の場を複数回にわたって創出し、「やさしい日本語」や外国語を用いながらのコミュニケーションにより、互いの意思疎通能力の向上や文化の理解等を図る。		
<STEP3>さっぽろ圏シニア向け高度観光人材育成プログラム		
○ <STEP2>の成果に留まらない更なる発展的な活用可能性を模索するための1つの実証実験として、<STEP2>のプログラムを修了し、外国人対応力が向上した「さっぽろ圏シニア」に対し、実地を含めた観光ガイドング等のスキル向上研修を実施の上、外国人モニターに対するガイドングを実践し、その満足度等に関するデータ収集を行う。		

II 調査概要

1 目的等

高齢者を社会に「支えられる側」としてではなく、社会を「支える側」として捉え直すことを前提に、さっぽろ圏という広域的なフィールドにおける「高齢者の活躍推進」に資する取組の構築に活用することを目的として、さっぽろ圏に居住するシニア層及び中年層に対し、現在又は将来の社会参画等に関する意識等についてのアンケート調査を行い、高齢者の活躍推進、特にシニア人材の育成・活用に関する課題の洗い出しや、課題に対応するための取組の検討、その実現可能性や有効性の検証等を行う。

2 方法

インターネットアンケート調査（「インサーチ札幌」）による回収

3 対象

シニア層：さっぽろ圏居住の65歳以上の男女

中年層：さっぽろ圏居住の45歳以上64歳以下の男女

なお、アンケートの有効回答数等は以下のとおり。

		配信数	有効回答数	回収率
シニア層	男性	627	234	37.3%
	女性	600	224	37.3%
	計	1,227	458	37.3%
中年層	男性	429	229	53.4%
	女性	401	296	73.8%
	計	830	525	63.3%
合計		2,057	983	47.8%

4 時期

シニア層：令和3年2月4日(木)～令和3年2月11日(木)

中年層：令和3年2月4日(木)～令和3年2月9日(火)

※ シニア層については、統計的に一定の妥当性が得られる有効回答数に達するまで調査期間を延長して実施

5 外部有識者

アンケートの作成に当たっては、ジェロントロジー（高齢化社会学）の提唱者であり、少子高齢社会における諸課題をはじめとする幅広い分野の専門知識を有する寺島実郎氏（多摩大学学長、国土審議会計画推進部会委員等）が会長を務める一般財団法人日本総合研究所から助言等をいただいた。

Ⅲ 調査結果概要

下表のとおり。

【シニア層（65歳以上）】

属性	概要（社会参画の考え方別の分析コメントを記載）
居住地	大きな差はない。
年齢	「現状を維持したい」という方は、75～79歳ではやや多い。[全体+3.7]
性別	「今後拡げたい・活動してみたい」という方は、男性で多い。[全体+6.9%]
最終学歴	「今後拡げたい・活動してみたい」という方は、大学卒業で多い。[全体+10.2] 「今後活動してみたいという気持ちはない」という方は、高校卒業でやや多い。[全体+5.5]
職業	「今後拡げたい・活動してみたい」という方は、主婦・主夫でやや少ない。[全体-6.3]

業種	「今後上げたい・活動してみたい」という方は、不動産業、物品賃貸業[全体+7]・運輸業、郵便業[+6.6]・情報通信業[+5.4]で全体よりやや多い。
介護サービス	大きな差はない。
要介護度	※N数が少ないため記載なし
世帯人数	「現状を維持したい」は、1人（単身）の方で全体よりやや多い。[全体+4.8]
同居家族	「現状を維持したい」は、母親と同居という方で全体よりやや多い。[全体+5.4] 「今後上げたい・活動してみたい」は、子（女）と同居という方で全体よりやや多い。[全体+5.6]
貯蓄総額	2,000万円以上の方で、「現状を維持したい」[全体+7.6]、「今後上げたい・活動してみたい」[+5.4]は、全体よりやや高く、「今後活動してみたい」という気持ちはない」は全体よりやや低い[-4.7]。

所属	概要（社会参画の考え方別の分析コメントを記載）
日常的に関わりのある人	「現状を維持したい」は、町内会の人[全体+27.0]や近所の人[+11.1]と関わりがある方で全体より多い。 「今後上げたい・活動してみたい」は、友人[全体+11.9]や勤め先の人[+12.7]と関わりがある方で全体より多い。
所属しているもの	「現状を維持したい」は、趣味などのサークル団体（代表者以外）[全体+13.2]や町内会（役員）[+24.8]、町内会（役員以外）[+14.2]に所属している方で全体より多い。 「今後活動してみたい」という気持ちはない」は、特になしと何も所属していない方で全体より多い[+17.4]。

社会活動	概要（社会参画の考え方別の分析コメントを記載）
社会活動	男女別では大きな差はない。 年代別では、75～79歳で「活動している」という方が全体よりも多い[全体+15.4]。
どのような活動	男性では、「給料・報酬を得て働いている」という方が全体よりやや多い。[全体+6.3] 年代別では、65～69歳では、「給料・報酬を得て働いている」[全体+19.4]という方が、70～74歳では、「ボランティア活動を行っている」[+16.4]という方が全体より多い。
現在の働き方	全体では、「週20時間未満」という方が45.0%で最も多い。

何歳まで働きたいか	全体では、「70歳～74歳」という方が42.5%で最も多い。
現在の活動時間	全体では、「週20時間未満」という方が98.0%と圧倒的に多い。
何歳まで活動を続けたいか	全体では、「70～74歳」という方が32.7%と最も多い、次いで「75～79歳」が28.6%である。
社会活動に関する考え方	<p>全体では、「現在は特に活動しておらず、今後も活動したいという気持ちはない」という方が48.0%と最も多い。</p> <p>男女別では、大きな差はない。</p> <p>年代別では、75～79歳で「既に活動しているので、現状を維持したい」という方が全体より多い[全体+10.3]。</p> <p>貯蓄総額別では、貯蓄はないという方で「現在は特に活動しておらず、今後も活動したいという気持ちはない」が全体より多い[全体+16.1]。一方で、貯蓄総額2,000万円以上の方では、その回答が全体よりも少ない[-11.6]。</p> <p>資格有無別では、何らかの資格を持っている方では、「現在は特に活動をしていないが、今後活動してみたい」が全体よりもやや多い[全体+6.5]。経験と資格どちらにおいても、特にないという方では、「現在は特に活動しておらず、今後も活動したいという気持ちはない」が全体よりもやや多い。</p>
希望する活動	<p>全体では、「新たに、ボランティア活動を行いたい」が56.0%で最も多い。</p> <p>男女別では大きな差はない。</p>
活動したくない理由	<p>全体では、「身体（体力）的に難しい」が40.6%で最も多い。次いで、「地域に活動したいと思える活動がない」が23.2%である。</p> <p>男女別では大きな差はない。</p> <p>年代別では、年代が上がるにつれて、「身体（体力）的に難しい」の割合が多くなっている。</p>
活躍する意義を感じられること	全体では、「明確な活動成果があること」、「地域や社会への貢献を実感できること」が37.9%で最も多い。

活躍の可能性	概要（社会参画の考え方別の分析コメントを記載）
今後活躍できる分野	<p>全体では、「特になし」が51.5%で最も多い。その他は、「家事」が12.9%、「介護・福祉」が9.4%、「子育て・教育」が8.7%である。</p> <p>男女別では、女性で「家事」が21.4%と全体より多い[全体+9.5]。</p>

	<p>「今後拡げたい・活動してみたい」という方で、「家事」「介護・福祉」「カウンセリング」「音楽」「観光」「農業」が全体よりやや多い。</p> <p>「今後活動してみたいという気持ちはない」という方で、「特になし」が66.5%と全体より多い[全体+15.0]。</p>
活用することができる資格	<p>全体では、「特になし」が64.8%で最も多い。</p> <p>男女別では、男性で「建設」が12.0%で全体よりもやや多い[全体+5.4]。</p> <p>年代別では、75～79歳で「建設」が15.0%で全体よりもやや多い[全体+8.4]。</p> <p>社会参画の考え方別では、資格では大きな差はなく、「今後活動してみたいという気持ちはない」という方で、「特になし」が74.7%と全体よりも多い。</p>
活用することができる経験	<p>全体では、「特になし」が44.3%で最も多い。その他では、「子育て・教育」が23.1%、「家事」が16.8%である。</p> <p>男女別では、女性で「子育て・教育」が37.9%[全体+14.8]と、「家事」が30.4%[+13.4]と全体よりも多い。</p> <p>年代別では、80歳以上で「音楽」が15.4%で全体よりやや多い[全体+9.5]。</p>
活用することができる趣味	<p>全体では、「旅行・レジャー」が38.9%で最も多く、次に「音楽」が31.7%、「本・雑誌」が28.2%となっている。</p> <p>男女別では、男性で「飲酒」[全体+14.2]、女性で「手芸・工芸」[+13.4]が全体より多い。</p>
活躍してみたい分野	<p>全体では、「特になし」が68.3%で最も多い。その他では、「観光」が8.7%である。男女別では大きな差はない。</p> <p>年代別では、75～79歳で「観光」が15.0%と全体よりやや多い[全体+6.3]。</p> <p>「今後拡げたい・活動してみたい」という方で、「観光」が23.0%と全体より多い[全体+14.3]。</p>
得意または好きな活動	<p>全体では、「自分の手や道具を使って作業すること」が35.4%で最も多い。次いで、「特になし」が33.4%、「自分の身体を使うこと」が21.4%となっている。</p> <p>男女別では、男性で「機械や装置などの操作・運転をすること」が17.1%と全体よりもやや多い[全体+7.7]。</p> <p>年代別では、75～79歳で「他者に教えること」が27.5%と全体よりも多い[全体+13.5]。</p>

	<p>「今後拡げたい・活動してみたい」という方では、「自分の身体を使うこと」「情報を収集すること」「他者に教えること」「他者の世話をすること」が全体よりも多い。</p>
金銭的な報酬	<p>全体では、「金銭的な報酬は望まない」が57.2%と多い。 男女別では大きな差はない。 年代別では、65～69歳では「金銭的な報酬が必要と考える」が50.9%と多い。年代が上がるにつれて、「金銭的な報酬は望まない」が多くなっている。 「今後拡げたい・活動してみたい」という方では、「金銭的な報酬が必要と考える」が52.0%である。</p>
希望する報酬額	<p>全体では、「1万円～5万円未満」が43.2%と最も多い。 男女別では、男性では「5万円～10万円未満」が最も多く、女性では「1万円～5万円未満」が最も多い。 「今後拡げたい・活動してみたい」という方では、「1万円～5万円未満」が48.0%と最も多い。</p>
金銭的な報酬以外に必要なもの	<p>全体では、「健康維持」が58.1%と最も多い、次いで「活動場所」が36.7%、「家族のサポート」が27.3%である。 男女別では大きな差はない。 年代別では、「健康維持」は75～79歳までは年代が上がるにつれて多くなっている。80歳以上では、「家族のサポート」が全体よりも多い[全体+11.2]。 「今後拡げたい・活動してみたい」という方では、「健康維持」「活動場所」「研修」「情報」「マッチング会などのきっかけ作り」が全体よりも多い。</p>
使用できるPCソフト	<p>全体では、「Word」が65.9%、「Excel」が58.1%、「PowerPoint」が19.4%。 男女別では、男性の方が一般的に使用できるソフトが多い。 「今後拡げたい・活動してみたい」という方では、各ソフトが全体よりもやや多い。</p>
使用できる外国語	<p>全体では、「特になし」が85.2%と最も多い。その他では、「英語」が12.9%。 男女別、年代別では大きな差はない。 社会参画の考え方別でも大きな差はない。</p>

社会を支える側	概要（社会参画の考え方別の分析コメントを記載）
---------	-------------------------

社会を支える 年齢	<p>全体では、「70歳」が29.5%で最も多く、次いで「75歳」が27.5%。 男女別では大きな差はない。</p> <p>年代別では、年代が上がるにつれて、社会を支える側の年齢も上がっている。</p> <p>「今後拡げたい・活動してみたい」という方では、「75歳」が最も多い。 「今後活動してみたいという気持ちはない」という方は、「70歳」が最も多く、「65歳」も全体よりも多い。</p>
--------------	---

【中年層（45歳以上64歳以下）】

属性	概要（社会参画の考え方別の分析コメントを記載）
居住地	大きな差はない。
年齢	「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方は、60～64歳が全体よりもやや多い。[全体+7.0]
性別	「経営を続けたい」という方は、男性が多い。[全体+27.4%] 「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方は、女性が多い。[全体+12.8]
最終学歴	「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方は、「大学卒業」が全体よりも多い。[全体+10.2]
職業	「経営を続けたい」という方は、自営業が多い。[全体+53.7] 「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方は、「主婦・主夫」が全体よりも多い。[全体+11.9] 「特に活動はしたくない」という方も、「主婦・主夫」が全体よりも多い。[全体+11.8]
業種	「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方は、「医療・福祉」[全体+6.2]、「公務」[+5.2]が全体よりもやや多い。
世帯人数	「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方は、「1人（単身）」が全体よりも少なく[-9.1]、「2人」が多い[+9.8]。
同居家族	「給与を得て働きたい」は、「子（男）」[全体+7.4]、「子（女）」[+5.7]と同居という方で全体よりやや多い。
貯蓄総額	「経営を続けたい」という方[全体+13.0]、「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方[+16.8]は、どちらも「2,000万円以上」が全体よりも多い。

所属	概要（社会参画の考え方別の分析コメントを記載）
日常的に関わりのある人	全体では、「同居していない親族」が61.1%で最も多く、次いで「勤め先の人」が53.7%。 女性では「同居していない親族」「友人」が、男性では「勤め先の人」が全体よりも多い。 「給与を得て働きたい」という方は「勤め先の人」、「経営を続けたい」という方は「近所の人」「町内会の人」、「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方は「友人」「近所の人」が全体よりも多い。「特に活動はしたくない」という方は「特になし」が全体よりもやや多い[全体+6.4]。
所属しているもの	「特になし」が69.9%と最も多い。その他では「町内会（役員以外）」が13.0%である。

	<p>男女別、年代別では大きな差はない。</p> <p>「経営を続けたい」という方では「町内会（役員以外）」[全体+12.8]、「趣味などのサークル団体（代表者以外）」[+15.5]が、「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方では、「趣味などのサークル団体（代表者以外）」[+11.0]、「NPO 法人・ボランティア団体（代表者以外）」[+14.1]が全体よりも多い。</p> <p>「特に活動はしたくない」という方では、「特になし」が全体よりも多い[全体+6.2]。</p>
--	---

社会活動	概要（社会参画の考え方別の分析コメントを記載）
将来の社会における活躍についての考え方	<p>全体では、「特に活動はしたくない」が37.5%と最も多い。次いで、「現在の水準とはいかないまでも、給与を得て働き続けたい」が35.2%となっている。</p> <p>男女別では、女性で「特に活動はしたくない」が42.6%で全体よりもやや多い。[全体+5.1]</p> <p>年代別では、大きな差はない。</p> <p>貯蓄総額別では、500万円～1,000万円未満の方では「現在の水準とはいかないまでも、給与を得て働き続けたい」[全体+15.3]が、2,000万円以上の方では「ボランティア活動を行いたい」[+11.1]が全体よりも多い。100万円未満の方では、「特に活動はしたくない」が全体よりも多い[+8.6]。</p> <p>資格有無別では、資格を持っている方では「現在の水準とはいかないまでも、給与を得て働き続けたい」[全体+11.6]、「ボランティア活動を行いたい」[+5.8]が全体よりも多い。資格、経験どちらも特になしという方では、「特に活動はしたくない」が全体よりも多く、特に経験がなしという方では全体+15となっている。</p>
活動したくない理由	<p>全体では、「身体（体力）的に難しい」が32.0%で最も多い。次いで、「地域に活動したい思える活動がない」「活躍する意義を感じない」が24.7%である。</p> <p>男女別では、男性では「活躍する意義を感じない」が41.4%で全体よりもやや多い[+15.7]。</p> <p>年代別では、60～64歳で「身体（体力）的に難しい」が40.0%で全体よりもやや多い[全体+8.0]。</p>
活躍する意義を感じられること	<p>全体では、「給料などの金銭的な報酬が得られること」が47.9%で最も多い。次に「明確な活動成果があること」が22.9%である。</p>

活躍の可能性	概要（社会参画の考え方別の分析コメントを記載）
今後活躍できる分野	<p>全体では、「特になし」が42.7%で最も多い。その他は、「家事」が14.9%、「子育て・教育」が13.7%である。</p> <p>男女別では、女性で「家事」が23.0%と全体よりも多い[全体+8.1]。</p> <p>「経営を続けたい」という方では、「音楽」[全体+26.4]、「アート」[+16.3]、「その他」[+16.7]が全体よりも多い。「特に活動はしたくない」という方では、「特になし」が全体よりも多い[+19.2]。</p>
活用することができる資格	<p>全体では、「特になし」が61.0%で最も多い。</p> <p>男女別では、男性で「建設」が10.5%で全体よりもやや多い[全体+5.7]。</p> <p>年代別では大きな差はない。</p> <p>「経営を続けたい」という方では、「建設」[全体+11.3]、「音楽」[+13.4]が全体よりも多い。「特に活動はしたくない」という方では、「特になし」が全体よりも多い[+15.6]。</p>
活用することができる経験	<p>全体では、「特になし」が38.1%で最も多い。その他では、「子育て・教育」が26.5%、「家事」が19.0%である。</p> <p>男女別では、女性で「子育て・教育」が39.5%[全体+13.0]と、「家事」が30.4%[+11.4]と全体よりも多い。</p> <p>「経営を続けたい」という方では、「音楽」[全体+22.3]、「アート」[+18.6]が全体よりも多い。</p>
活用することができる趣味	<p>全体では、「音楽」が34.5%で最も多く、次に「映画」が28.8%、「旅行・レジャー」が28.2%となっている。</p> <p>「経営を続けたい」という方では、「音楽」[全体+36.5]、「映画」[+22.8]、「旅行・レジャー」[+17.0]が全体よりも多い。「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方では、「園芸・ガーデニング」が23.0%で全体よりも多い[+12.5]。</p>
活躍してみたい分野	<p>全体では、「特になし」が60.0%で最も多い。その他では、「観光」が8.4%である。男女別、年代別では大きな差はない。</p> <p>「経営を続けたい」という方で、「音楽」が19.4%と全体よりも多い[全体+13.9]。</p> <p>「特に活動はしたくない」という方で、「特になし」が78.7%と多い[全体+18.7]。</p>
得意または好きな活動	<p>全体では、「自分の手や道具を使って作業すること」が35.0%で最も多い。次いで、「特になし」が32.2%となっている。</p> <p>男女別では、男性で「機械や装置などの操作・運転をすること」が19.2%と全体よりも多い[全体+9.5]。</p>

	<p>年代別では、60～64歳で「自分の手や道具を使って作業すること」が25.7%と全体よりも低い[全体+9.3]。</p> <p>「町内会・ボランティア活動を行いたい」では、「自分の手や道具を使って作業すること」[全体+12.5]、「情報を収集すること」[+14.6]、「他者の世話をすること」[+14.2]が全体よりも多い。</p>
金銭的な報酬	<p>全体では、「金銭的な報酬が必要と考える」が82.3%と多い。</p> <p>男女別では大きな差はない。</p> <p>年代別では、45～59歳では「金銭的な報酬が必要と考える」が80%以上。</p> <p>60～64歳では、「金銭的な報酬は望まない」が30.6%と全体よりも多い[全体+12.9]。</p> <p>「給与を得て働きたい」という方では、「金銭的な報酬が必要と考える」が94.5%と多い[全体+12.2]。「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方では、「金銭的な報酬は望まない」が32.8%と多い[+15.1]</p>
希望する報酬額	<p>全体では、「5万円～10万円未満」が33.7%と最も多い。</p> <p>男女別では、男性では「10万円～20万円未満」が最も多く、女性では「5万円～10万円未満」が最も多い。</p>
金銭的な報酬以外に必要なもの	<p>全体では、「健康維持」が56.4%と最も多い、次いで「活動場所」が39.8%、「家族のサポート」が36.8%である。</p> <p>男女別では、女性で「活動場所」が45.6%と全体よりも多い[全体+5.8]。</p> <p>年代別では、55～59歳で「情報」が41.9%と全体よりも多い[全体+11.2]。</p> <p>「給与を得て働きたい」という方では「活動場所」が、「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方では「健康維持」「情報」「家族のサポート」が延滞よりも多い。</p>
使用できるPCソフト	<p>全体では、「Word」が73.9%、「Excel」が69.5%、「PowerPoint」が31.4%。</p> <p>男女別では、男性の方が全般的に使用できるソフトが多い。</p> <p>「経営を続けたい」という方では、「その他」が19.4%と全体よりも多い[全体+14.7]。</p>
使用できる外国語	<p>全体では、「特になし」が83.0%と最も多い。その他では、「英語」が15.4%。</p> <p>男女別、年代別では大きな差はない。</p> <p>「経営を続けたい」という方では、「英語」が35.5%と全体よりも多い[全体+20.1]。</p>

社会を支える側	概要（社会参画の考え方別の分析コメントを記載）
社会を支える年齢	<p>全体では、「65歳」が40.8%で最も多く、次いで「70歳」が32.6%。</p> <p>男女別では大きな差はない。</p> <p>年代別では、45～59歳までは「65歳」が最も多いが、60～64歳では「70歳」が最も多い。</p> <p>「町内会・ボランティア活動を行いたい」という方では、「70歳」が53.5%と全体よりも多い[全体+19.9]。「特に活動はしたくない」という方では、「60歳」「65歳」が全体よりもやや多くなっている。</p>
将来を見据えて行っていること	<p>全体の65.1%が将来を見据えて行っていることは「なし」と回答。上位の回答は、「貯蓄」が16.4%、「健康」が9.3%、「投資」が4.0%である。</p>

IV 考察

1 高齢者の活躍推進に向けた課題の洗い出し

以下では、高齢者の活躍推進に向けた課題について、シニア層、中年層に分けて示した上、両層における課題を比較する²。

(1) シニア層における課題

① 「活動をしたい」よりも「活動したくない」が多数

シニア層における社会活動に関する考え方として、「現在は特に活動しておらず、今後も活動したいという気持ちはない」というネガティブな意識の方が全体の約5割を占めるという結果となった（シニア層Q18）。このようなネガティブな意識の方には、社会活動に関する一般的な情報提供や、活躍の場に関するマッチング会の開催などのプル型の手法による社会活動の促進等を行うことは効果的でない可能性が高い。

② コミュニティに属していない方の活動意欲の低さ

町内会やNPO法人、サークル団体など、何らかのコミュニティに属していないシニア層は、社会活動に関する意欲が相対的に低く（シニア層Q4、13など）、社会活動に関する考え方には、コミュニティの所属の有無が関係していることが窺えた。

③ 「自分」＝「支えられる側」という意識

² 本章における括弧内の番号は、「シニア層」は参考資料1中の「シニア層（65歳以上）の調査結果」、「中年層」は同資料中の「中年層（45歳以上64歳以下）の調査結果」、「比較」は同資料中の「シニア層と中年層との比較」の番号を指す。

シニア層において、自分は、既に「支えられる側」であり、又は、もうすぐ「支えられる側」になるという意識の方が多く（シニア層Q31）、自らが社会活動を行う立場ではないという意識が根底にある方が多いものと推測された。

(2) 中年層における課題

① 「シニア層」になる準備への意識の低さ

中年層において、自身がシニア層になり、社会で活躍するとした場合、金銭的な報酬以外に必要なものとして、「健康維持」がトップとなった（中年層Q21）が、実際に将来を見据えて、これを行っている方は、全体の1割にも満たず、また、約65%の方は、将来を見据えた意識した行動を特段行っていないという結果となった（中年層Q25）。

また、資格を有していたり、趣味としては行っているものの、それを「今後活躍できる分野」として結び付けて捉えられている方は少ないことが窺えた（中年層Q16及びQ15）

② 65歳以降も給与を得て働きたい方が多数だが、有資格者は少数

65歳以降も給与を得て働きたいと考える中年層は8割を超える（中年層Q19）一方、そのために有用であると思われる資格を有している方は4割にも満たない（中年層Q16）。

③ 「勤め先」以外のコミュニティへの所属率の低さ

上記1(1)②のとおり、コミュニティ所属の有無が、社会活動に関する意欲に影響を与え得るところ、中年層において、「勤め先」以外のコミュニティに属している方は、約3割しかおらず（中年層Q11）、定年退職となった際に、どのコミュニティにも属さないという方が多く発生してしまう可能性がある。

(3) シニア層と中年層における課題の比較

① シニア層より中年層のほうが「社会を支える側」だと思える年齢が低い

「社会を支える年齢」について、中年層では「65歳」であると考えの方が、シニア層では「70歳」であると考えの方が最も多い（〔比較⑱〕）。更に細分化すると、45～49歳、50～54歳、55歳～59歳の階級では「65歳」、60～64歳の階級では「70歳」、65歳～69歳の階級では70歳、70～74歳の階級では「75歳」が最も高いというように、階級が上がるにつれて、自身が考える、社会を支える年齢が上がる傾向にあり、実際のイメージと現実とのギャップが生じている可能性がある。

② 貯蓄総額が社会活動への意欲に影響。金銭的な報酬をシニア層より中年層のほうが望んでいる

シニア層と中年層の双方において、貯蓄総額が高いほど社会活動に関する意欲が高い（〔比較③〕）。これは、コミュニティとの接点や金銭的な余裕などが要因として考えられる。

また、今後、社会で活躍するとした場合、シニア層の約6割が「金銭的な報酬は望まない」と回答しており、金銭的なインセンティブが社会参画への誘引要素にはなりにくいものと考えられる一方、中年層の約8割が「金銭的な報酬が必要と考える」としている（〔比較④〕）。

③ シニア層においても中年層と同程度、外国語を使用できる

シニア層と中年層ともに、外国語を使用できるという回答の割合は2割弱であり、大きな差はない（〔比較⑧〕）。

2 高齢者の活躍推進に有効と思われる取組とその実現可能性等

以下では、高齢者の活躍推進に有効と思われる取組とその実現可能性等を示す。

(1) 「活動をしてほしい」という意識への変化を促す取組

上記1(1)①のとおり、特に、シニア層においては、「活動をしたい」という方よりも「活動をしたくない」という方が多数という課題があるところ、活動をしたくない理由について分析を行うと、「身体（体力）的に難しい」というものが最も高い〔比較⑥〕。一方で、社会活動の中には、身体的な困難を伴わずに行えるものが多数ある。また、ひとくくりに「シニア層」といっても、その属性は様々であり、それらを同一の取組でフォローすることには困難を伴う。よって、シニア層をいくつかのグループに分けた上で、それに応じた取組を検討することが有効であると考えられる。

具体的には、シニア層のセグメンテーションを行い、「セカナビ札幌」のように、さっぽろ圏内の市町村における活動等を洗い出した上で、セグメンテーションに合わせた取組を検討すること等が実現可能性の面からも高いものと考えられる。その際、プル型的手法では情報が届きにくいと思われる層（社会活動に関する意識が低い層）に、情報を届けるための取組の検討に当たり、「活動をしたくない」と考えている方々について、その生活状況等を調査し、その原因をより深く分析することも必要である。

(2) コミュニティへの参加の促進に向けた取組

上記1(1)②及び1(2)③のとおり、シニア層において「活動をしたくない」という方の多くが、何らかのコミュニティに属しておらず、また、中年層において「勤め先」以外のコミュニティに所属していない方が多いという結果となったことから、社会活動をより一層促すためには、「勤め先」以外のコミュニティに属していない方々に向けて、「勤め先」以外のコミュニ

ティに参加してもらうことを目的とした取組を行うことが有効であると考えられる。

また、さっぽろ圏をはじめとする全国で、子育て支援や就農などの様々な「居場所づくり」の取組が行われているが、「活動をしたくない」という方の中には、資格、経験等がないために、活躍できるという自信がなく、社会活動をしていないという方も少なくないと推察される一方、資格、経験等がないまでも、趣味として行っていることはあり、本人が活躍できる分野であると思っていなくても、客観的にみれば、活躍の可能性がある場合があることも予想される。

そのような方々に対しては、「他者から認められる」「他者から評価される」という体験が奏功する可能性があることから、コミュニティへの参加を積極的に促すとともに、民間等でリリースされているスキルの客観的な評価を得られるサービスの活用等は、一定程度の実現可能性があり、検討の余地もあるものとする。

(3) シニア層のマインドセットや、活躍するシニア層の姿の情報発信

上記1(3)①のとおり、「社会を支える年齢」にギャップがあり、低年齢層であればあるほど、「社会を支える年齢」と考える年齢が低い。このように、中年層による「社会を支える側」ではないという意識の早期形成が、「シニア層」になる準備にも影響を与えることが想定される。

そこで、このような問題を解消するための1つの方法として、現在の中年層が考える「社会を支える年齢」よりも高い年齢層が、より一層活躍することを促すこと等が考えられる。具体的には、シニア層に対し、社会参画その他活躍に関する意識向上に資する研修（マインドセット等）等を行うとともに、シニア層が活躍する姿などを中年層に向けて適切に情報発信すること等の取組は実現可能性が高いと考える。

これにより、中年層が考える「社会を支える年齢」が上がることで、中年層が「シニア層」になる準備をより行うようになること等が期待され、今後、加速化することが見込まれる少子高齢社会において、シニア層がより積極的に活躍し、圏域（地域）の活力が維持・向上していくことが見込まれる。また、シニアの活躍という機運が1つの生活圏であるさっぽろ圏において醸成されることで、現状において、自身は「社会を支える側」ではなく「社会に支えられる側」であるという意識を持っている方々の意識変革にもつながるような好循環が創出され得ると考えられることから、非常に効果的な取組となる可能性を有するものとする。

(4) 金銭的な報酬を伴う活躍の場の創出やマッチング、資格取得サポート

上記1(3)②のとおり、シニア層と中年層の双方において、貯蓄総額が高

いと社会活動に関する意欲が高いという傾向がみられた。また、シニア層では金銭的な報酬を望む声はそれほど多くないものの、中年層では、金銭的な報酬を望む声が多い。しかし、活躍の場につながりやすいと思われる資格を保有している方はそれほど多くない。

今後の人口構造に鑑みると、労働力人口の減少がより顕在化していくことは明らかであるため、将来、シニア層となる現中年層に向け、金銭的な報酬を伴う活躍を創出するとともに、よりシニア層のニーズに沿った多様な働き方の提示や、資格取得のサポートを行う取組等を拡充していくことが有効であると考え。また、このような取組は、たとえば、多様な働き方の提示について、さっぽろ圏を対象とする、シニア層に対する体験付き仕事説明会（シニアワーキングさっぽろ）など、モデルとなるようなものが既に行われており、取組としての実現可能性も比較的高いものであると考える。

(5) 外国語を使用する活動を促す取組

上記1(3)③のとおり、さっぽろ圏においては、外国語を使用することができるシニア層の割合が、中年層と同程度に豊富である。また、コロナ禍以前のインバウンド需要などにより、日常生活の中で外国人と接する機会が少なくない土地柄の影響もあってか、現に、「活躍してみたい分野」としても、シニア層、中年層ともに「観光」がトップであるところ（〔比較⑫〕）、今後、インバウンド需要が回復した場合には、そのようなニーズも多く生じる可能性がある。さらに、さっぽろ圏においては、いわゆる「外国人材」

（外国人労働者）が地域に馴染めず、孤立している現状があるとともに、基礎的・日常的なフォローの必要性も見受けられる。このように、さっぽろ圏には、外国語を使用することができる方々の活躍の場が潜在的に多く存在するとともに、圏域（地域）における課題解決の一助にもなることが予想される。

このような活躍を積極的に行ってもらうために、活躍の場の創出を支援するなどの準備が今後有効であると考えられる。さっぽろ圏では、たとえば、千歳市ホストファミリーボランティア登録制度のように、外国語を使用できる方のボランティアを募集する取組がある。こうした取組を「やさしい日本語」³なども活用しながら増強していくことは、ベースとなる外国人対応力を活かしつつ、シニアが使用できる外国語と外国人ニーズのミス

³ 簡易な表現を用いたり、文の構造を簡単にする等して、日本語に不慣れな外国人にもわかりやすくした日本語のこと。阪神・淡路大震災以降、災害時の情報提供において活用されるほか、平時や観光での多言語対応の1つの手段として研究や活用が進んでいる。

マッチの補完にもつながり得るため、非常に有効であり、実現可能性も高いものであると考える。

V 今後に向けて

本事業を通じて、高齢者の活躍推進、特にシニア人材の育成・活用に関する課題の洗い出しや、有効と思われる取組、その実現可能性等に関する検討等を行った。その結果、少なくとも、さっぽろ圏のシニア層においては、そもそも、自らが「社会に支えられる側」であるというような意識等により、「活動をしたい」というポジティブな考えの方が多くはなく、その要因を分析した上で、活躍に関するマインドセット等の取組を行う必要性が認められた。また、中年層においても、「シニア層」になる準備への意識の低さなどが認められ、シニア層と同様に、意識変革の必要性が認められた。

両層に共通するのは、「勤め先」以外のコミュニティとの関係性が希薄さであり、民間の取組の活用も視野に入れ、コミュニティへの参加の促進に向けた取組を行っていくことも必要であると思われた。

また、上述のような取組を通じて、シニア層の社会参画の土壌をつくりながら、1つの生活圏であるさっぽろ圏全体において、「活躍しているシニアの姿」の情報発信等を行い、「シニアの活躍」という機運を醸成していくことにより、人口減少・少子高齢化が急速に進行するなかにおいても、さっぽろ圏全体の活力が維持・向上していくことが期待される。

さらに、多様な活躍をより促すためには、機運の醸成というような活躍のベースをつくる取組のみならず、これからシニア層となっていく現中年層のニーズに応じた、金銭的な報酬を伴う活躍の場の創出や、そのような場とのマッチング機会の提供のほか、活躍の前提となり得る資格取得のサポートを行う取組の拡充等も検討に値するものと考えられる。

また、外国語を使用する活動を促す取組についての有効性や実現可能性も認められ、Iに記載する当初実施予定であった事業の意義についても再確認できたところである。

以上を総合的に考慮の上、引き続き、さっぽろ圏内の市町村間の連携を図りながら、民間における取組も含めた、既存のさっぽろ圏内における取組の活用、拡充等の検討のほか、ウィズ・アフターコロナにおけるインバウンド需要の回復等も見据えながら、当初実施予定であった事業の実施も視野に入れ、「高齢者の活躍推進」に向けた取組の検討を行い、人口減少・少子高齢化が更に進展するなかにおいても、さっぽろ圏全体の活力の維持・向上に資するような取組を模索していくこととする。